

2006年3月3日
日本銀行盛岡事務所

岩手県金融経済概況

1. 概況

県内経済は、緩やかに持ち直しつつある。

すなわち、生産動向をみると、IT関連分野で回復の動きが続いているほか、自動車関連分野での増産などから、全体として緩やかに持ち直しており、こうした状況を反映して雇用情勢も改善の動きが続いている。一方、最終需要の動向をみると、個人消費は、大雪の影響もあって大型小売店の売上を中心に全体として弱めの動きとなっている。住宅投資は、貸家を中心に増加している。公共投資は、減少傾向にある。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、家電販売が堅調に推移しているが、大雪の影響等の天候要因から大型小売店の売上を中心に、全体としてみれば弱めの動きとなっている。

(大型小売店売上高)

百貨店・量販店の売上げは、基調としては下げ止まりの兆しが窺われるものの、大雪の影響から客足が鈍る中、需要の集中した重衣料等冬物商品が品不足状態になったことや、低温の影響から春物衣料も伸び悩んでいるため、前年を下回っている。

(家電量販店売上高)

家電売上高は、暖房器具に一服感があるほか、DVDが伸び悩んでいるものの、薄型テレビが好調な販売を続けているほか、パソコンも大画面・デジタル放送対応の新モデル投入効果もあって幾分動意がみられているなど、堅調に推移している。

(乗用車新車登録台数)

乗用車新車登録台数(軽自動車を含む)は、新型車投入の端境期となって

いることや、大雪に伴う購買意欲の減退がみられたこともあって、普通車・小型車を中心に前年を下回って推移している。

(旅行取扱高)

旅行取扱高は、ハワイ、東南アジア等海外旅行のほか、一部国内旅行にも持ち直しの動きが見られる。

(2) 住宅投資

新設住宅着工戸数は、月々の振れを伴いつつも、貸家を中心に全体として前年を上回っている。

(3) 公共投資

公共工事請負金額をみると、予算規模の縮小から減少傾向にある。

3. 生産動向

生産面では、IT関連分野の回復や自動車関連分野での完成車を中心とする増産等から、全体として緩やかに持ち直している。

(電気機械)

半導体・電子部品は、自動車向け、パソコン向けを中心に高水準の生産が続いている。

(輸送用機械)

完成車は、新車種の生産が本格化し、稼働時間の延長等により操業度を一段と引き上げている。また、自動車部品では、海外需要が好調であることや、大雪に伴う特需もあって、フル生産を続けている。

(設備関連)

工作機械では、内外の自動車および同部品メーカー向けを中心に豊富な受注残を抱え、フル操業を続けている。

(その他)

鉄鋼(線材)は、海外製品の流入もあって在庫過剰感が台頭し、操業度を低下させている。

合板、セメントやコンクリート二次製品など建設関連品目では、一部に関東を中心とするマンション関連の受注増加やスポット案件もみられるが、公

共投資の減少等を背景として、生産能力をかなり下回る低水準の生産が続いている。

紙・パ（段ボール原紙）は、食料品・飲料品向け需要の好調から、高水準の生産が続いている。

4. 雇用・所得動向

雇用情勢をみると、有効求人倍率は、生産の持ち直しに伴う製造業の求人増加等を背景として上昇しており、地域別格差を伴いつつも、全体として改善傾向が続いている。また、全国平均との格差は緩やかながら縮小している。

一方、所得面をみると、雇用所得はなお前年を下回っているが、所定外労働時間が、製造業における増産や建設業での除雪作業等もあって増加している。

5. 企業倒産

企業倒産をみると、落ち着いた動きが続いている。

6. 金融動向

預金は、公金預金が前年割れで推移しているが、個人預金が堅調に推移しているほか、法人預金も下げ止まりの傾向にあることから、ほぼ前年並みの水準となった。

貸出は、法人向けが、製造業の一部や不動産賃貸業向け等で動意が窺われる。また、個人向けが住宅ローンを中心に増勢が続いているほか、地公体向けも増加していることから、全体では小幅ながら前年を上回っている。

以上